

会 議 記 録 (概要)

会 議 名	平成29年度 第3回三田市スポーツ推進審議会
日 時	平成29年8月30日(水) 14時00分から16時00分
場 所	三田市役所 3号庁舎3201会議室
出 席 者	高見会長、藤原副会長、北川委員、齊藤委員、薩摩委員、末松委員、谷委員 徳丸委員、古田委員、六反委員、渡委員
事 務 局 等	(市民生活部) 入江部長 (市民文化室) 仲井室長 (文化スポーツ課) 横溝課長、森鼻係長、梅垣 (コンサルティング業者) (株)地域計画建築研究所 石井
傍 聴 者	なし
添 付 資 料	レジュメ、資料13～資料18

会議概要

1. 開会 (14:00～)

2. 報告

- ・会議の成立
- ・委員・事務局職員紹介 (前回欠席委員のみ)
- ・傍聴報告
- ・第2回スポーツ推進審議会での調査結果【資料8】

3. 協議事項

① 三田市スポーツ推進基本計画にかかるテーマ別審議項目

(1) スポーツで「障がい者に元気を！」

<事務局から説明>

会長：一回目の審議会でも言ったかもしれない「障がい者に元気を」というテーマについて障がい者に元気がないという前提で書かれている気がする。障がい者の方は元気がないからスポーツで元気を、というニュアンスに感じる。「障がい者のためのスポーツ実施の機会をもっと増やしていく」、というような、何かこれに代わるテーマがないだろうか。違和感はないか。

委員：そういう視点で見るとそう感じるかもしれない。一般的に、色々な人と関わっていると実際に、障がい者は引きこもっていて元気がない、というイメージを持っておられるように感じる。しかし、障がい者にも夢や生きがいを持った人はいるし、健常者にも元気がない人はいる。区別する必要がないのでは。スポーツは生きがいや趣味であり、ここでも生きがいや夢とするほうがしっくりくる。元気に代わるものを探すなら、「機会」という言葉がいいのでは。

委員：楽しみや喜びを感じてもらうための取組という言葉のほうがいいと思う。

会長：個人的に元気を、というのが引っ掛かる。

夢・生きがいと続く中で「元気」という言葉が出てきたのかもしれないが、引きこもらず

にスポーツを通じて交流する・元気に生きる、という前提なら「機会を」のほうがいいのでは。

委員：これから審議していく中で「機会を」としている方がいろいろな後の話につながるのではないかと思う。

会長：障がい者の中にも、パラリンピックのような競技性の高い場でスポーツをする人もいれば、軽く体を動かす機会がほしいという人もいる。社会復帰を目指しておられる方々にも三田で様々な参加の機会に触れられれば。

委員：「スポーツで〇〇を」というように始まるということになると「夢」「生きがい」ときて「機会」は違和感がある。喜びをとというほうが語呂がいい気がする。

委員：今年の春、障がい者のスポーツ団体を立ち上げる話があったが市では何か動きがあるのか。

事務局：6月に三田市障がい者スポーツ協会を立ち上げようということで、会の中で意見や検討はあった。そこから進展はない。障害のある方と業者が間に入り話をする中では、温度差があり進行が難しい。年度内か来年度には立ち上げようという話にはなっている。市が直接関係するのではなく、自主的に話し合っていたいでいる。

委員：チラシを配布したランニング教室について。

昨年の2月と3月に三田市社会福祉協議会主催で、併走ボランティア養成講座が行われた。それについて、ランニングをされる知的障がい者や目や耳が不自由な方について、走りたいたいというニーズはあると聞いていたが、実際に障害のある方と走る機会を設けると、さらに継続して行ってもらいたいという要望をいただいた。今後、障がい者のマスタースマソンへの出場もさらに増やしていきたいという思いが、社会福祉協議会にも我々にもある。そのような要望は今後増えてくると思われる。関係団体に協力いただきながら、それを支えるランニングサポーターを増やしていきたい。10月と11月に開かれるので興味があればぜひ参加していただきたい。

会長：サポーター育成のための仕組みは何かあるか。

委員：まだこれから。時間がかかると思う。そのような正式なボランティア団体を作っていくという計画もある。

委員：昨年の伴走者・併走ボランティアの講習会以降、ランニングクラブが母体となったボランティアの組織を作る動きが始まっており、どういう形でやっていくか相談にしている。現在クラブチームのメンバーだけで知的障害のある方のガイドを行っているが、これをもう少し組織として大きくできないか。社協が中心となって動いているが、クラブも一体となって一つの組織として行えないか。

篠山の方で、併走ボランティアを求めて大阪まで行っているが、もし三田にあるならば、そこをお願いしたいという話を聞いた。

ボランティアを募るうえで、マラソンのボランティアとすると間口が狭くなってしまいう気がする。敷居を下げるためにウォーキング・ランニングのボランティア、あるいは来てもらって一緒に歩いたり話すだけの井戸端会議のような形でもいいと考えている。母体としてクラブチームが中心に行く。しかしクラブチームの中には競技者が多いので、将来的にはクラブチームの中にありながらも独立して運営できる伴走者協会のようなものを思い描いている。たくさんの方に来て見て体験してもらえそうという機会を作りたい。行政に

も協力していただきたい。

会長：「元気」というテーマについて 次回までに検討を

(2) スポーツで「地域コミュニティの活性化を！」

<事務局から説明>

委員：三田市の公共スポーツ施設で指定管理になっている施設はどれくらいあるのか。

事務局：駒ヶ谷体育館と城山運動公園、下青野テニスコートなど。都市公園とされている公園はすべて指定管理となっている。なっていないのは勤労者体育館。公民館と併設した地区体育館のような施設はない。

委員：関西学院大学三田キャンパスのグラウンドは市と大学で共有しているのか。シドニーパラリンピックのときは市と大学事務局の許可がなければ使えなかった。400メートルのトラックがあるが、イベントや大会で利用はできないのか。

事務局：関学が開校したときは覚書の中に市民利用があった。市民利用をするうえで、体育担当を通じて地域の団体が使えるようにしていた。しかし、学部や学生が増え学生の利用頻度が増えたため、土日は使えなくなっている。現在は市を通して利用するということは行っていない。関学の方で空いていれば使えるということになっている。

委員：自分自身が陸上教室をやっている関係もあるが、練習している子どもたちが 成果を発揮する場がほしい。以前はあったが、今はほとんどなくなっている。今は三木市の防災公園までいかなければならない。遠いので学校の協力もない。やるなら個人ということになっており、学校での練習もできない。その状況が5年以上続いている。協会・審判の都合もあると思うが、子どもたちのための機会を地元が作る事ができれば、子どもたちの競技力向上に繋がるし、それに伴う指導者や障がい者のコミュニティづくりが、より活発になるのでは。市内には施設があるので、それを利用したイベントや大会を市で行ってほしい。

副会長：指導者の育成について、体育協会は競技ごとに専門性があるのでわかりやすい。スポーツクラブとなると曖昧で、まとめ役となり全体を指揮できる人も必要。

小学校区ではスポーツクラブの中に設備がないため行えない競技がある。そのため仕方なく別の競技に行く子もいる。中学でも部員が多すぎるために十分な練習ができず、つまらなくなった結果スポーツクラブに来る子もいる。スポーツクラブにおける指導者はどのようなものか。

体育協会とスポーツクラブそれぞれの指導者に求められるレベル・資質は違う。スポーツ推進委員もいるが、競技の専門的な指導となると厳しい。

委員：スポーツと体育の住み分けがごちゃ混ぜになっているのでは。審議委員会に置いては 三田におけるスポーツをどのようなものとしているのか。

会長：現行の計画ではスポーツを種目に限らずあらゆる日常の生活動作・身体活動をスポーツととらえるとしている。興味のない人にもスポーツに関心をもってもらうとしたとき専門的なスポーツに絞ると難しい。競技性を求めるのでなく健康を維持するためのスポーツとして意識している人が多い。三田市としてはそういう形ととらえている。学校に任せきりにするのではなく、地域が子どもの成長に関わり、課外活動やボランティア、様々なスポーツの機会と、子どもとの接点を作るべき。

今後必ずしも八景中学校のようにクラブ数を維持できるとは限らない。今後は学校に部活動がなくてもスポーツクラブで様々な競技に対応できるという仕組みの検討も必要。

委員：障がい者のスポーツの在り方について。昔はスポーツ競技を行う際、障がい者が健常者に負けてしまうため、別々で競技大会を行うことがあった。しかし、スポーツは差別を生むものではない。これからは障がい者と健常者が共にスポーツを行い、一緒に活動の輪を広げていけるようなあり方を求めていければ。先ほど出たランニング教室のような取組みは一番いい形ではないか。

委員：地域コミュニティの活性化という中でスポーツクラブ21(以下SC21)の在り方が問われている。少子高齢化が進む中で、子どもが減り活動ができなくなっている。その中で、会費や保険など様々な問題はあるが、3年以内にSC21を一本化したいと考える。そうしなければ子どもたちの活動の場が減ってしまう。そのためには市の協力がいる。3年後くらいを目指し、一つになればいいと思う。10年後振り返ったとき良かったと思える環境づくりをできれば。

会長：SC21、体育協会、推進委員など様々な団体があるが、それらが一堂に会する機会を作れるといい。

(3) 三田らしいスポーツの推進

委員：三田市の特性を生かしたスポーツとしてあげられるのが、サイクリング、キャンプ。これらはまさに三田の特性を生かしているといえる。ぜひ取り組んでいただきたい。

委員：さくら回廊ウォークには何人参加しているのか。

事務局：約1700人が参加している。

会長：ウォーキングコースを10コース持ち、マップを市民に配るという自治体はあまりない。ウォーキングは三田らしさといえる。

委員：スポーツ用の人材バンクの作成や、市内在住のトップレベルの選手の活用、三田市の姉妹都市であるオーストラリアからの選手の招聘など、三田市ならではの人材活用の新たな手段を検討すべき。

②審議会スケジュール

<事務局から説明>

4. その他

5. 閉会(～16時)

以上